

第4回小平市第2次健康増進計画検討委員会 要録

1 日時

令和5年2月14日（火）午後1時30分から午後3時まで

2 開催場所

小平市健康センター4階 視聴覚室

3 出席者

小平市第2次健康増進計画検討委員会委員：15名のうちウェブ出席2名（欠席者1名）

事務局：健康・保険担当部長、健康推進課長、健康推進課長補佐兼保健指導担当係長、
健康推進課長補佐兼予防担当係長、保健指導担当係長、健康推進担当係長、事務局職員2名

4 傍聴者

なし

5 配付資料

資料1 第4回 小平市健康増進計画検討委員会配布資料一覧

資料2 （仮称）第2次こだいら健康増進プラン骨子（案）

資料3 （仮称）第2次こだいら健康増進プラン骨子（案）イメージ

資料4 新旧対照表

参考資料1 国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的な方針 骨子（案）

参考資料2 現行こだいら健康増進プラン施策体系一覧

参考資料3 東京都自殺総合対策計画（第二次）案 概要

6 議題（次第）

（1）議事

（仮称）第2次こだいら健康増進プラン骨子案について

（2）次回の日程について

7 会議の概要

(1) 開会

委員長より開会のあいさつを行った。

健康推進課長より委員会の進め方について説明を行った。

事務局より会議資料の確認を行った。

(2) 議事

(仮称) 第2次こだい健康増進プラン骨子案について

参考資料1、資料2、資料3、資料4をもとに、事務局から説明を行った。

委員長：ただ今の説明について、ご質問やご意見があれば、お願いしたい。

委員：先程の説明で、小平市民の健康状態の影響については、前回、意識調査の中で全てお話したとのことだったが、そうは思わない。小平健康増進プランには、きちんと項目ごとに目標値が載っているが、それに対しての事務局からの説明はなかったように思う。PDCAにのっとってやるためには、小平市民の健康状態を示す資料が必要である。

事務局：骨子案については、第2回検討委員会において、アンケートを取りまとめた際に、前回の結果との比較を掲載し、報告させていただいた。次期計画の骨子案は、国の計画を踏まえて作成したものとなる。いただいたご意見については、次回以降の会議に順次ご提示して行ければと考えている。

委員：今まで十分時間があつたと思う。皆さんにも、今のデータが不十分なのか、委員長の方から確認していただけるとありがたい。

委員長：皆さんいかがでしょう。私は意識調査報告書などを読み込んで、問題点はある程度把握している。そもそも健康増進計画というのは、国と都の指針に沿って市町村で策定していくものなので、今までの説明で十分だと思っているが、人によって感じ方が異なると思うので、意見があれば出してほしい。今までの説明で十分だと思われる方は、挙手をお願いしたい。

(委員の挙手、多数)

事務局：今日の議論は骨子についてなので、目次のような一番大きなところの議論である。次回の会議以降、各論に入っていくので、そこを議論する中で必要だと思われるデータは、ご提示させていただきたいと考えている。

事務局：事前意見を残し7件いただいているので、説明させていただきたい。

(以下、事前質問・意見)

① 第2次の方が、分野や分野別目標が具体的にわかりやすくなった。

今後、目標達成への取り組みを考えていくとき、市民の健康に関する意識調査で目標値に達していなかったり、下回ったものについては、現行の取り組みを続けるだけでなく、別の取り組みを検討する必要があると思う。

(事務局回答)

国及び東京都においても、現在、次期計画の策定を進めているところである。引き続き、国及び東京都の動向を注視し、現行の取り組み内容を継続するだけでなく、委員からご意見いただいたように、現行の取り組みを工夫していくことや、必要に応じて別の取り組みなどを検討していくように努めていく。

- ② 事務局から事前送付された第4回会議用の資料2と資料3については、小平市民の平成27年度から令和4年度の健康状態を示す整理された資料・データが添付されていないため、検討が難しいと感じた。現状の把握・共有化が次期プランの策定・検討の第一ステップではないか。

(事務局回答)

骨子案について、第2回検討委員会において、令和3年度に実施したアンケートを取りまとめた際に、調査報告書に前回の結果との比較を掲載し、報告させていただいた。委員よりお示しいただいた内容については、次回以降の会議に順次お提示できればと考えている。

- ③ 基本理念の変更理由を教えてください。自殺対策計画も次期プランに包含して策定することが義務付けられたことによるものか。

(事務局回答)

基本理念の変更点として、「こころとからだ」という文言を追加した。これは、次期計画において、「こころの健康」として、自殺対策計画を包含して策定することから、そのことを明示したものである。

- ④ 基本理念の変更理由の根拠やベースとしたエビデンス(データ)を教えてください。

(事務局回答)

基本理念の変更点として、「こころとからだ」という文言を追加した。これは、次期計画において、「こころの健康」として、自殺対策計画を包含して策定することから、そのことを明示したものである。

- ⑤ 本目標について、現プランでは「65歳健康寿命」だったが、次期プランでは、何を設定する予定なのか。

(事務局回答)

国及び東京都の次期計画を踏まえて設定する予定だが、東京都の次期計画が「65歳健康寿命」の指標を、現行と同様に使用した場合、市の次期プランにおいても「65歳健康寿命」を設定する予定である。

- ⑥ 基本目標について、「健康寿命の延伸」のほか、「健康状態の(やや良いも含めた)良い人の割合)」の新たな追加を提案する。

(事務局回答)

ご提案いただいた内容については、既に現行プランの指標としても記載している。基本目標としては、国の骨子案等に併せて「健康寿命の延伸」とする。また、「65 歳健康寿命」を指標として設定している経緯は、東京都にて毎年の値を算出でき、経年推移を把握できること、区市町村毎に算出でき、相互に比較ができることが挙げられる。

- ⑦ 「65 歳健康寿命」では、若い世代には健康に関する関心を持ってもらうのは難しいのではないかと。健康状態の(やや良いも含めた)良い人の割合)」であれば、どの世代でも共通で身近で健康と直結しており、健康への関心を高めるのではないかと。必要に応じて簡単なアンケートで、特段の経費もかけずできるのではないかと。健康の状態を定期的に把握できるため事業の変更をタイムリーに実施できるのではないかと。

(事務局回答)

若い世代に健康に関する関心を持ってもらう方法、健康無関心層への周知については、今後どのような取り組みが有効的なのか、市としても課題であると認識していることから、国及び東京都の動向に注視していく。委員からのご提案いただいた内容は参考意見とさせていただきます。

委員：1 つ目だけが他の方の意見で、2 から 7 番は自分の意見だ。基本理念の中で「こころとからだ」が追加された理由となる、ベースのエビデンスを見せて欲しい。

事務局：「こころとからだ」を入れたのは、今回の健康増進計画については、自殺対策計画を包含するというのが 1 つ大きなポイントで、それをイメージするにはどうしたらよいかと考えたときに、そのキーワードを入れた。国の方で入っているの、市町村でも入れる必要がある。数値的なものは、施策を打って行く段階で、把握していくことになる。現時点、骨子策定の段階では、国や都の考え方に合わせてお示ししているところである。

委員：平成 26 年、29 年のデータは前のものに載っているが、それ以降、令和 3 年までのデータがない。精神疾患やひきこもりの人などの追加データもあれば共有して欲しい。

委員長：自分が探したデータだが、基本的に市町村の健康増進計画は、国、都と連携しながら進めていくという前提がある。国の方がこころの健康問題を取り上げたのは、2019 年の国民生活基礎調査の結果で見ると、これは 12 歳以上の調査だが、全ての年代で 40%以上の方が何らかの悩みを抱えている。また、厚生労働省の調査でも、こころの病に該当する人が 10%以上、リスクを抱えた人も 20%近くいるということが分かっている。精神疾患だけではなく、生活満足度も含めた、幸福感を含めたこころの健康の問題ということが、今、

日本の抱える非常に大きな問題になっている。そこで、社会的健康も含めて、こころの健康と非常に密接に関連しているので、そこも含めて国がそういう計画を、そこに重点を置いて取り組んでいこうと考えている。それに準じて、小平市の方もそこを一つ独立させて、取り組んで行こうということが、国や行政の進めている方向性だと思う。

委員：都の健康推進会議や自殺会議では、今、委員長のおっしゃった内容で審議されている。もう1つ、基本プランの目標の中に、健康状態の良い人の割合を追加したらどうかと提案している。

委員長：この点については非常に興味深いと思っている。自己評価を入れるのは面白いと思うが、一方で、色々な条件を調べるとやはり感度が悪い。健康状態の主観的評価は、高齢者にとっては非常に有効な指標になるが、若者にとっては、やはり「良い」と思っている人の割合が多いことが分かっている。小平市の健康に関する意識調査を見ても、18～39歳の層で「あまり良くない」と答えた人は5.8%、「良くない」と答えた人はわずか1.9%しかいない。女性においては、18～39歳で「あまり良くない」が12.8%、「良くない」と答えた人は0.7%だ。ここの改善を目指すとなると、男性は10%以下、女性は約10%しかターゲットにならない。私自身は健康の自己評価を入れることに関しては非常に面白いと感じているが、全世代の目標と設定するには、少し改善の指標としては、感度が悪いという意見を持っている。

2 次回の日程について

事務局より次回の日程について説明を行った。（令和5年6月頃予定）

会議全体を通して、各委員より以下のとおり情報提供があった。

委員：参考に、厚生労働省から1月20日に令和4年の自殺者数の速報が出されている。速報値は、21584人で、前年度の確定値に比べて577人増加したという報告だった。厚生労働省としては、今後、新型コロナが自殺の動向に与えた影響の分析を深めていきたい、ということだった。やはりコロナの影響もあると思うが、自殺者数は増えているので、皆さんに情報提供させていただいた。

委員：自殺者数は対策によって減って来ていたのだが、コロナが流行ってから、増加に転じていると言われている。比率としては、都のデータにもあるように男性の方が多い。増加は、若い女性で特に多いというのが、データで示されている。理由として、やはり社会的な経済基盤が弱い人に傾向が強い、ということが言われている。今回、就労している方、学校に所属している方は組織からのフォローが受けられているが、そういう所属がない方などに、自殺

者数が多いのではないかと推測されている。その方が所属している組織以外からの、総括的な支援が必要ではないか、あるいはそういう時に、なかなか支援者を持っていない方がいらっしゃるのでは、若い方であれば、SNSとかネットを通じた支援の仕組みが、今後必要になってくるのではないかとされている。私が所属するセンターでは、今、研究として「ココロボ」という取り組みをしていて、ネット上でこころの健康をチェックする仕組み、それで悪い場合はプログラムで会話するサービスや、オンラインで心理士などが面談するサービス、必要があれば医療機関を紹介するサービスを研究しているので、そういう取り組みは続けている。

副委員長：前回も少しお話させていただいたが、小平市の事業として、年5回、市民向けに薬と健康のガイド相談をしている。今回の骨子を見ると、薬、薬局、薬剤師というワードが、循環器疾患のところの「かかりつけ医とかかりつけ薬局を普及します」と1行しか載っていない。実は年5回やって、年間7、800人の市民と相談しており、もう10年以上やっているのでは、1万人くらいの市民の健康の相談を受けている。相談内容としては、循環器疾患、食と栄養とか、禁煙、飲酒、このような相談がほとんどだ。その割に、薬剤師や薬局というキーワードがここの1行しか出て来ないので、非常に寂しい感じがした。

事務局：骨子ではなかなか薬というキーワードは位置付けにくい。先生方の取り組みについては、具体的な取組のところで反映されていくと思うので、今後具体的な内容を詰めていく中で、位置付けていけるようにしたい。

副委員長：都から委託事業として、年1回は各市でもやっているが、年5回市民に対して健康相談をやっている市というのは、小平市くらいである。少し入れていただけたらいいと思う。

以上